逞筆模試

■第三回　七月二十一日

解答難度指数 1.68

(一) 次の傍線部分の読みを**ひらがな**で記せ。①～⑳は**音読**み、㉑～㉚は**訓読み**である。 (30) 1×30

①流行坎止して滄桑の変を危ぶむ。
②耆艾の箕裘を承けて追孝とす。
③一同梟盧の成すに瞠乎たり。
④繽繙として熙朝の徽幟此に在り。
⑤緑林白波を坊門にて邀研せん。
⑥城狐を劾詆して君側を清む。
⑦袞竜の袖に逼邇して身を潜む。
⑧扁舟に臥して匏樽を尽くした。
⑨斯の遺構にも秘府の鑰牡はなし。
⑩廩人粟を継ぎ、庖人肉を継ぐ。
⑪斂葬の儀は癸巳に行われた。
⑫我朮は胃潰瘍に効能がある。
⑬自由平等の大旆を翳す。
⑭端厳たる娃鬟、白妙の尊容。
⑮身を惜しまず栖鶻の危巣に攀づ。
⑯全く紕繆のない錦綉の文章。
⑰密勿として雛雉を鞠育す。
⑱午餉の柝の音が四隣の寂寞を破る。
⑲泛駕の馬に喩うべき逸才である。
⑳奉公にゆく誰彼や貝回し。
㉑陽炎が立ち、土熱れの上がる猛暑日。
㉒老大家に褒められて脂下がっている。
㉓家眷偕に先妣の墓所に参る。
㉔発酵した醂醤油を漉す。
㉕門を噤じて啓くなきこと有り。
㉖允に厥の徳を迪む。
㉗不調法者の楫取りに吝かでない。
㉘粐を常食の米とする。
㉙縉紳欣然として之を鬻ぐ。
㉚礼楽を説び詩書を敦くす。

(二) 次の傍線部分の**カタカナ**を**漢字**で記せ。⑲、⑳は**国字**で答えること。 (40) 2×20

①指輪に宝石を**カンニュウ**する。
②今後の方針を漏れなく**ルセツ**する。
③瞬時に**シンガン**を見分ける鑑定士。
④**ソロ**にして短兵急な作戦だ。
⑤互いに**シノギ**を削り学業の覇を争う。
⑥**テンシ**板に蝶を固定する。
⑦池魚は**テイソ**を免れず。
⑧**タイセキ**する二つの主義が同居する。
⑨離下より仰げば**ワビ**しき深窓の美女。
⑩指名手配犯は**ドウアク**な人相だ。
⑪諸侯の**シジュン**に切々と答申する。
⑫大粒の**シュウウ**に襲われる。
⑬輔弼の臣は儲君の怠惰を**オウカン**した。
⑭礼状を認めて**オウカン**紙を貼る。
⑮五寸の鍵**カイコウ**を制す。
⑯浩瀚たる**カイコウ**鳥跡に圧倒される。
⑰偽証して被告人を**キョクヒ**した。
⑱海胆や海鼠は**キョクヒ**動物に属する。
⑲子供の**シツケ**に喧しい家だ。
⑳直径一**センチメートル**の硝子管。

(三) 次の1～5の意味を的確に表す語を、次の□から選び、**漢字**で記せ。 (10) 2×5

①四十八歳。
②ねごと。たわごと。
③立ったまま上体を深く倒してする礼。
④小児を抱くこと。
⑤日本語で「シャ・チョ」などの音節のこと。

きはい・けいせつ・ぜいげん
そうねん・はつおん・びご
ようおん・ようじゅ

(四) 次の**問1**と**問2**の四字熟語について答えよ。 (30)

問1 次の四字熟語の(①～⑩)に入る適切な語を次の□から選び**漢字二字**で記せ。 (20) 2×10

(①) 心離　南蛮 (⑥)
(②) 青眼　梅妻 (⑦)
(③) 画塗　竜頭 (⑧)
(④) 聴従　百折 (⑨)
(⑤) 斬釘　茅屋 (⑩)

えんべん・かくし・げきしゅ
げきぜつ・げんせき・さいてん
すいはん・せってつ・ふとう
ぼうごう

問2 次の①～⑤の**解説・意味**にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その**傍線部分だけの読み**を**ひらがな**で記せ。 (10) 2×5

①顔かたちがやつれて生気がないこと。
②自分は平凡な人間という謙遜。
③些細なことでおじけづく。
④あちこちから意見の出ること。
⑤友人の来訪を手厚くもてなすこと。

濯纓濯足・七嘴八舌・鞠躬尽瘁
形容枯槁・影駭響震・斗量帚掃
咄咄怪事・冒雨剪茁

(五) **熟字訓・当て字**の**読み**を記せ。 (10) 1×10

① 香魚　② 紙鳶　③ 首途　④ 栄蘭　⑤ 珠鶏
⑥ 燭魚　⑦ 西蔵　⑧ 看麦娘　⑨ 三稜草　⑩ 側金盞花

(六) 次の**熟語**の**読み**（**音読み**）と、その**語義**にふさわしい**訓読み**を（送りがなに注意して）**ひらがな**で記せ。 (10) 1×10

ア ① 荒遐…② 遐か
イ ③ 無疆…④ 疆り
ウ ⑤ 捍禦…⑥ 捍ぐ
エ ⑦ 豊悴…⑧ 悴れる
オ ⑨ 仆偃…⑩ 仆れる

(七) 次の①～⑤の**対義語**、⑥～⑩の**類義語**を後の□の中から選び、**漢字**で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。 (20) 2×10

① 万斛　② 誘掖　③ 醇厚　④ 窮乏　⑤ 三十棒
⑥ 鳩尾　⑦ 遭逢　⑧ 慮外　⑨ 顕彰　⑩ 亀裂

かいこう・かげき・ぎょうはく
こうせい・ししゅ・しんか
せいひょう・ふじょう
ねいげん・りょうじ

(八) 次の故事・成語・諺の**カタカナ**の部分を**漢字**で記せ。 (20) 2×10

① 群玉ヨウダイの仙境。
② シモク大なれど視ること鼠に若かず。
③ テッショを磨く。
④ 杙を以てエイと為す。
⑤ ハモも一期、海老も一期。
⑥ 明日はエンオの塵ともならばなれ。
⑦ ケンケンの壅がざれば終に江河となる。
⑧ 志士はコウガクに在るを忘れず。
⑨ 竜は初夜後に吟じ、虎はゴコウゼンに嘯く。
⑩ ヤスリと薬の飲み違い。

(九) 文章中の傍線（1.～10.）の**カタカナ**を**漢字**に直し、波線（ア～コ）の**漢字**の**読み**を**ひらがな**で記せ。 (30) 2×10 1×10

A

朕惟うに、方今人文日にアの就り、月に将み、東西相倚り、彼此相済し、以て其の福利を共にす。朕は、爰に益々国交を修め、友義を惇くし、列国と与に永く其の慶に頼らむことを期す。顧みるに、日進の大勢に伴い、文明の恵沢を共にせんとする、固より内国運の発展に須つ。戦後日尚浅く、庶政益々更張を要す。宜しく上下心を一にし、忠実業に服し、勤倹産を治め、惟れ信、惟れ義、醇厚俗を成し、華を去り実に就き、荒怠相誡め、自彊息まざるべし。抑々我が神聖なる祖宗の遺訓と、我が光輝ある国史の成跡とは、1.ヘイとして日星の如し、イ寇に克く恪守し、ウ率礪の誠をエ輸さば、国運発展の本、近く斯に在り。朕は方近の世局に処し、我が忠良なる臣民の協翼に2.イシャして、維新の皇猷を3.カイコウし、祖宗の威徳を対揚せむことを庶幾う。爾臣民、其れ克く朕が旨を体せよ。

（明治天皇の詔書「戊申詔書」より）

B

今茲春、考試甫めて訖わり、僚友相誘いて、墨西の超然楼に遊ぶ。（…中略…）三廻の里に抵れば、則ち花木両三株、欣欣として人を邀う。古歌に咏ずる所、芳山の口、一樹先導する者は、想う応に此と趣を同じうすべし。行くこと数百歩、樹滋多く、花滋穠し。清流碧疇、左右に映帯す。其の対岸は、楼閣高低、オ緑嶺翠楊の表に隠見す。所謂超然楼は、応に此の際に在るべし。時に游舫有り、妓を載せて其の下を過る。因って戯れに口占して曰く、「昨日楼頭李杜に会い、今日楼下楊妃を見る。」と。凡そ墨堤十里、両畔皆桜、淡紅濃白、歩に随うて人に4.コぶ。遠き者は招くが如く、近き者は語らんと欲す。間少曲折有り。第一曲自り、東北に行くこと三四折、以て木母寺に至りて窮まる。曲曲回顧すれば、花幔地を蔽い、恍として路無きかと疑わる。排して進めば、則ち白雲の坌涌するが如く、杳として5.サイガイを見ず。低回の頃、肌骨皆香しく、人をして蒼仙に化せんと欲せしむ。既にして夕陽林梢に在り。落霞カ飛鳧、垂柳疎松の間に閃閃たり。長流6.コンコンとして、潮満ち石鳴る。西のかた芙蓉を仰げば、7.トツコツ万仞。東のかた波山を瞻れば、8.スイカンが如し。また宇内の絶観なり。先師慊叟嘗て予に語る、「吾京師及び芳山の花を9.レキランせり。然れども風趣墨水に及ぶ者莫し。」と。洵に然り。

（塩谷宕陰「游墨水記」より）

C

余嘗て前代風気の迹を攷うるに、亦以て其の故をキ繹ねて、其の勢を揣る可き歟。蓋し漢学の我が朝に入るは、応神にク刱まる。典章・事為、粲然として此に由って観る可し。中ごろ敏達に仏あり。頗る奔波を極むと曰うと雖も、而も仍一隅に止まる。然る後百王推す可き也。治者・被治者の交渉自り、以て夫婦の倫・父子の夷にケ暨るまで、凡そ10.シャショク・民人に綱法たる所以の者は、皆孔氏の教えに原づきて、コ畔く或る莫し。

（森田思軒「文明東漸史外篇序」より）

―― おわり ――